

しょっぱいどら焼きの巻

19 世紀後半にニーチェが「神は死んだ」と書いた頃には、宗教の権威というものがだいぶしぼんでいたのかもしれませんが、現代では心のよりどころを失った一部の人が「スピリチュアル」と呼ばれるジャンルに吸い寄せられているようです。

私は小学生の頃にオカルト漫画に出会ってからというもの、そういう、世間の常識人からはちょっと眉を顰められるような物事にも面白味を感じて生きてきました。

近年、「スピリチュアル」の言説の中によく出てくるのが「引き寄せ」という話です。

高額セミナーを開催するようなカリスマが何人もいるらしいです。

私はそれらのバイブルのような本をいくつか買い求めて読んでみたことがあります。

中でも目を引くのは、あなたがある種の心の在り方をマスターすればどんな願望も必ず叶う、というものでした。中には百万円欲しいと願ってそれを当たり前のようにイメージしたら、なんとある日、家のポストに百万円の包みが届いていた、という体験談までありました。まあ、世の中にはそういうこともあるのかもしれませんが。

一方、私はある時期に行き詰まりを感じたとき、いわゆる自己啓発みたいなものに興味を持ちました。本からセミナーに誘導するというのは一つのビジネスモデルなのかもしれませんが。とはいえ何十万円もするセミナーに行く勇氣はなく、幾つか本を読んだくらいですが。

「願望は叶う」というメッセージ自体はスピリチュアルと同じでしたが、違うのは自己啓発の方は読者にあれこれと難しいハードルを課して忍耐強い行動を要求するところでした。

残念ながら自分にはそれらのハードルを越えられそうにないのでおおかた諦めましたが、良い習慣を身に付ければ諸々改善していくことを知ったのは収穫でした。

そんなわけで私も、願い事は案外叶うものなのかもしれないと思って生きているわけです。

ところで、私はその日までの 1 週間ほど、うっすらと「おいしいどら焼きが食べたいなあ」と思っていました。今年は小豆を食べると運気が上がるとどこかの占い師も言ってたし。その気になればコンビニで買えるし、何なら休みの日に自宅近くの専門店へ行くこともできるのですが、なんとなくそのままにしていました。

そんなある日。入院患者さんのご家族が面会に来たので、軽い気持ちで顔を出しました。高齢な奥さんの最近の様子を知りたかったのと、もう一つ理由がありました。

以前小欄でも書きましたが、当院は長期入院を前提としていないのです。

したがって、お元気ではなくても比較的状況が安定していれば転院をお願いしています。

その奥さんにもちょうど転院先の選定をお願いしていたところでしたが、進捗が滞っていたようなので直接お尋ねしようと思いついたのです。

ところが私が迂闊でした。その日はちょうどご夫婦の記念日で、奥さんは一緒に祝おうと楽しみにしていたのです。

しかしそんなタイミングで医者呼び止められ、しかもちょうど病院が提示した転院先に納得がいかず苦悩しているところへ進捗を質されたのです。

気づけばまるで私が催促しているような話になり、「いや、そうじゃなくて…。」
誤解を解こうとするうちに、売り言葉に買い言葉みたいなやり取りへエスカレートしたと気づいたころには時すでに遅しでした。謝りながら私は部屋を後にしました。

「ああやっちゃった」と後悔に打ちひしがれていたら、そのあとを拾って奥さんをなだめてくれた看護師に呼び止められました。

「奥さんが、先生に悪いこと言っちゃったって謝ってました。で、これ、一緒に食べてって渡されました。」

小さな包みに目をやると、どら焼きが2個入っていました。

私のせいでご夫婦の記念日を台無しにされ、自分の努力を否定するような態度をとられてもなお、こんな施しをしてくださるなんて。

頂いたどら焼きはその看護師と二人で分けました。そこでふと気づきました。

ああ、確かにどら焼きが欲しいという願望は見事に叶った。

食べましたよ。でも、あまりにもしょっぱいどら焼きでした。

ね、願望は叶うんです。こんな形であっても。

念のため申し添えますが、当院では職員への金品の付け届けは一切お断りしております。
なのでこの話はフィクション、かもしれません。